

帯広市民劇場

帯広市民劇場運営委員会広報誌

北海道帯広市西5条11丁目48番地2

帯広市民文化ホール内

TEL・FAX 0155-21-5518

web <http://www.shimingekijo.com>

令和2年度帯広市民劇場賞等を受賞された皆様に今後の抱負について伺いました。



絆を紡いで

帯広市民オペラの会 会長 松崎 千枝子

平成6年「帯広にオーケストラがあるのだからオペラもできるのではないかと帯広市民劇場運営委員会から声があがりました。

舞台での総合芸術と云われるオペラを市民の手で！

当時の運営委員長杉浦壽氏のパワー溢れるリーダーシップの下、指揮、演出に中央からプロをお呼びし、市の文化課と(財)文化ホールの協力も得て、2年間に及ぶ稽古が進みました。演出助手、舞台監督助手、大道具、小道具、

舞台美術、衣裳、メイクアップ、スタッフ諸々の部署を市民劇場運営委員が核となり公募のボランティアメンバーと一丸となり、まさに戦いのような2年間でした。

オーディション合格者のソリスト、合唱連盟メンバーと公募によるカルメン合唱団、舞台で歌い演技する出演者も、スタッフの皆様の熱意に打たれて、頑張ることができました。

平成9年11月22日(土)・24日(月・祝)全ての力を輝かして第1回市民オペラ公演「カルメン」が満席のお客様の大きな拍手と共に幕を降ろしました。

その熱も冷めやらぬ翌平成10年、この市民オペラの火を消してはならない！と新たに帯広市民オペラの会が発足、当時の市民劇場運営副委員長千田慶子氏が会長に就任、以来20余年市民劇場運営委員会の力強い応援の下、オペラの会は数々の演奏会を開催し、研鑽を積んでいます。

市民の皆様にはオペラに親しんでいただけるように、オペラ、オペレッタの合唱、アンサンブル、アリアを場面設定し演出に趣向を凝らしお客様に楽しんで頂いています。

平成30年に20周年を迎えた帯広市民オペラの会は帯広市民劇場運営委員会誕生し、育てられたのです。

これからも、その歩みをゆるめないように！会員一同努力を続けてまいります。応援をよろしく願いいたします！



市民手作り公演の支援、芸術文化団体や個人の育成・発掘を

帯広市民劇場運営委員会

委員長

瀧川 秀敏

帯広市民劇場は、昭和38年帯広市教育委員会の発案により、帯広市及び十勝の芸術文化の発展向上に寄与することを目的に設立されました。以来、現在まで50数年に渡り、演ずる者とそれを鑑賞する者との交流の場を創り、併せて芸術文化団体並びに個人への支援と育成を図りながら、930回に及ぶ公演を開催してきました。

平成5年からは、帯広市文化スポーツ振興財団が設立された

ことに伴い、帯広市と財団と帯広市民劇場との間で事業の住み分けが行われ、帯広市民劇場は、市民オペラ・市民バレエ等、市民手作り公演の支援や芸術文化団体並びに個人の育成・発掘を主たる事業として実施しているところです。

平成29年には、国は「文化芸術基本法」を制定し、国、地方自治体、文化施設はもとより、芸術文化団体にもその責任が求められる、芸術文化は観光や福祉、教育など様々な分野と連携しながら、まちづくりに努めなければなりません。帯広市民劇場もその一翼を担ってまいりたいと存じます。

今後とも、帯広市民劇場に変わらぬご支援を賜りますようよろしく願い申し上げます。



未来に繋ぐ

梅根 礎子

八十才を過ぎるまで忌わしい戦争の記憶は思い出すのも辛く私の心の中に封印され誰にも語ることはありませんでした。その後いくつかの偶然が重なり出前講座で小学生に私の戦争体験を話す機会を得ました。

戦争を知らない先生方も生徒も真剣に聞いてくれました。この講座を切っ掛けに戦争や平和について学習を深めたようです。満ちたりた生活の中で過去の悲惨な体験を聞くことは非常に意義があり教科書では得られない何にも代えがたい授業でしたと先生からお手紙を頂きました。うれしいことです。これからも命の尊さや生きる喜びそして困難に打ち勝つ工夫など子供達に伝えたいと思います。



一步一步

和泉 よう子

新しい年を迎え、受賞の重さをヒシヒシと感じています。これまでにいろいろな方々に支えられ、背中を押され、描き続けてこられたことに感謝しております。

私は「刻」をテーマとして時を刻むようにコツコツと作品を制作してきました。これからも気負う事なく継続は力を信じ「一步一步」歩んで行こうと気持ちを新たにしました。

昨年は出品を予定していた催しが中止、延期となりました。このことが、自分にとって展覧会に参加し、作品を観て頂く事が何よりのよろこびであり、生き甲斐なのだ強く感じました。感染症の流行が1日も早く収束し自由に語り合える時が来る事を願っています。

略年表

- 1963 帯広市民劇場発足記念フェスティバル
- 1985 ミレーとバルビゾンの森の画家たち展
- 1989 第1回おびひろ薪能
- 1991 第1回新人演奏会(現在まで17回実施)
- 1995 第1回北の構図展(現在まで14回実施)
- 1997 第1回市民オペラ(現在まで6回実施)
- 2004 第1回市民バレエ(現在まで4回実施)
- 2005 第1回邦楽邦舞 WS(現在まで14回実施)
- 2006 小学校出前講座(現在まで15回実施)
- 2008 第1回ふるさと公演(現在まで8回実施)
- 2017 北の輝き vol.1.(現在まで2回実施)

※現在までに930回を超える公演を開催しております。



うたは友なり

短歌誌『樹ぎぎ樹』
編集・発行人

酒井 武

この度は帯広市民劇場 功労賞を賜り会員一同、望外の喜びとするところであります。

平成7年、舟橋伶子氏と野江敦子氏の両氏により短歌季刊誌として創刊。中城ふみ子の検証にも力を入れており、昨年の1月に通巻100号を達成した。

しかしながら、今年は編集人の木村百合子氏、中城ふみ子の実妹の野江敦子氏と相次いで大切な歌人を失った。昨年来のコロナ禍に戦々恐々としている昨今であるが一步一步進む他はない。幸いにも若く力のある会員が出てきたことが楽しみである。

○不要不急にあれど如何なるときもうたは友なりわが傍にあり



帯広市民劇場新人賞を受賞して

高濱 渉

この度は、帯広市民劇場新人賞という荣誉のある賞を賜り、大変嬉しく身が引き締まる思いです。

いつも活動を応援してくれる両親をはじめ、職場の方や書の仲間、そして様々なところで励ましの言葉をかけていただく方々に深く御礼を申し上げます。

現在は、五大に関する根源的なものをテーマにし、作品制作を行っています。豊かな自然がある帯広という場所で普段目にする風景に圧倒されながらも、この自然の美しさを書で表現したいと思っています。今後も書の可能性を追求し、従来の書道から現代アートへ昇華できるよう、日々自分と向き合い努力を重ねていきたいと思っています。

今年度の事業計画

- 第40回おびひろ市民芸術祭(2021.4~5)
- 北の輝き vol.3「長岡幸枝と仲間たち」(2021.7.4)
- 小学校出前講座(2021.8~3)
- 出前講座夏休み特別講座(2021.8.5~6)
- 帯広市民劇場賞等の贈呈(2021.11)
- 帯広市文化団体及び関係者新年交礼会(2022.1)
- 出前講座冬休み特別講座(2022.1)
- 邦楽邦舞ワークショップ(2022.2~3)
- 第18回新人演奏会(2022.2.13)
- 広報誌の発行
- HP開設

※詳細につきましては市民劇場 HPにて掲載